
ひとり五枚会「正社員」

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとり五枚会「正社員」

【Nコード】

N8396R

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

こんなひどい正社員いない……けど、アルバイトはあまりに生活が苦しいのでこういつ話を書いてしまっ。

テーマ：正社員

禁止：「?」「と」「!」「

枚数：2000字前後

五枚会終了後、初のひとり五枚会。みんなとの楽しい一時は終わった。これからは孤独な戦いでR。

テーマ「正社員」

禁止：「！」「？」を使用してはならない。

2000字前後

松平源一は、某スーパーに勤務する正社員であった。かなり悪な不良正社員であった。

「こら。カネ出せ。殺すぞ」

「ひいいい」

便所で、バイトの首を絞め、脅してる。

「それ取られたらアパート代払えない」

「ふん。バイトがアパートとは生意気だ。公園にテントを張って暮らせ」

「そんなあ」

バイトはわんわん泣く。「うるせえ」

源一はバイトの腹を殴って便所を出た。今巻き上げたカネでラーメンを食べに行く。

源一は、仕事をすぐにバイトに押しつける。

「おい。これやっとけ」

「そんな。まだ仕事か」

「うるせえ」

バイトの腹を蹴飛ばした。「ぐはっ」

「ふん。正社員に逆らおうなんざ、百年早い」

こんな理不尽な源一ではあるが強い者には弱い。

事務室で店長の肩をもむ。

「ねえ〜ん店長。給料上げてくれるよう、店長会議で言ってくださいよ〜」

「しかし、うちの会社業績が悪いからな。正社員の給料を上げるとなると、非正規労働者の賃金を大幅にカットせにゃならん」

「いいじゃないですか。あんなクズども、今の賃金でも高いくらいですよ。おつ店長。凝ってますね」

「お。気持ちいい。そうだな。わしの給料も上がるしな。うはははは」

「いひひひひひ」

バイトやパートに仕事を任せ、源一はソファーに寝転ぶ。

「ああ。正社員で最高だな。ちょっと仕事ただけで、どんどんカネが入る。やめられまへんな。いひひひひひ」

源一の部署で働いていたパートがあまりに過重労働で自殺。同じくアルバイトがあまりに低賃金で餓死。

「何だ何だ。この忙しい時に使えないやつらだな」

源一は怒り心頭である。仕事が増えた。といっても、元々源一がやらなければいけない仕事なのだが。

源一はイライラしてバイトを便所に呼んだ。

げんこつを作り、バイトのこめかみを両脇からぐりぐりした。

「痛い痛い痛い」

「うははははは。もっと泣けもっと泣け」

源一はバイトからカネを奪い、ケーキを買った。仕事をバイトに押しつけ、ソファーに座り、ケーキを食べた。

「来週、長期休暇とってグアムに行こうかな」

「こんな源一だから、当然、女房もくそ女である。」

「ねえん。あなたあ。指輪買ってよう」

家事をしゃがらんくそ女である。コインランドリーや外食ばかりで、すごく不経済である。正社員の給料が破格といっても限界がある。

てか家の仕事せんくせに指輪をもらおうとは頭がおかしい。

「しかし、カネがないんだよなあ」

「非正規労働者の賃金を半分にしてもらって、正社員の給料を上げてもらえばいいじゃない」

「お。オレも同じこと考えて、店長に言ったんだよ。君とは気が合うなあ」

「あなた大好き」

「オレも大好き」

抱き合つくそ女とくそ男。肥溜めのような愛である。

その頃、公園のテントの中で、源一が勤務するスーパーのバイトが寒さと飢えのために死んだ。

源一は、店長の肩をたくさんもんだので、副店長に昇進。給料が倍になり、ますますバイトやパートをこき使うようになって、仕事はますますラクになった。

しかし、源一と女房はとにかくカネを使う。松阪牛のステーキを食べたり、海外旅行に何回も行ったたり、だからお金がなかなか貯まらない。

それが源一はイライラする。そもそも源一は不都合なことをすべて社会や他人のせいにする癖がある。自分たちが悪いなんて少しも思っていない。

「くそバイトどもめ。あいつらがしつかり働かないから、会社の業績が伸びず、オレたちは貯金できないんだ」

「あなた。こらしめてやりなさいよ。くそバイトを調子に乗らせたらだめだわ」

源一は、翌日、バイトを便所に呼び出した。

洗面するところに水をたっぷり入れ、そこにバイトの顔を突っ込んで頭を手で押さえた。

「謝れ。オレたち正社員に謝れ。お前らが怠けるから会社の業績が伸びずに、オレたちが貯金できねえじゃねえか。天に謝れ。ごめんなさいと言え」

バイトはもがくが、源一は手を離さない。このままだと死んでしまっ。

死ぬ寸前で手を離れた。

「がはっ」

バイトが顔を上げた瞬間、バイトの顔にパンチを食らわした。「ぐはっ」

「くそバイト。天罰だ」

そして、バイトの腹を何回も何回も何回も殴る。バイトはひざまずき、口から血を吐いた。

源一は怒りが収まらず、バイトに電流を流した。

びりびりびりびり。「むぎやぐぎやめぎやああああああ」

バイトの目から鼻の穴から口から耳から血が噴き出した。

しかし、バイトはびしょ濡れだったため、源一は感電した。「むぎやあぎやもがあああああああ」

アホ丸出し自業自得。

しかし、源一は決して自分のせいにはしない前向き野郎。

「おのれ。もう許さん」

源一は、ぐったりして床に倒れたバイトの背中に乗り跳び跳ねる。

「うははは。トランポリンだ。楽しいな。うははははは」

ぴょん。ぴょん。ぴょん。

愉快的気分にはなるが、貯金ができない現状には変わりが無いので、イライラは取れない。

「くそバイトめ。オレたち正社員を苦しめやがってくそ腹立つ。どうしてくれようか」

源一はズボンとパンツを下ろし、バイトの上につんこをぶりぶりした。

そして、そのつんこを手に取り、バイトの顔にべたべた塗った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8396r/>

ひとり五枚会「正社員」

2011年3月23日17時55分発行